

2009年9月14日（月）18:00-19:30

レセプション・スピーチ (3)「福岡ニューディール」

麻生 渡 福岡県知事

今回の世界不況を機に我々がどのように変わっていくかが課題である。その突破口が「福岡ニューディール計画」である。今はパラダイムシフトの時なので所得の高い雇用を作っていくにはどうしたらよいか考えなければならない。

パラダイムシフトの1つ目は環境シフト。2つ目は安くて機能的なものに需要が移っていくこと。高級品や有名ブランドの需要は下がっていくだろう。3つ目はBRICSが力を持ってくるという点。4つ目は安全・安心の比重拡大。5つ目は内需型経済は成功しないという点だ。特に5つ目は、そもそもグローバル化の流れの中で内需・外需という概念はおかしいと考える。内需型での成長セクターは医療および介護である。この分野が成長していくためには、膨大な資金を毎年投入する必要があるが、日本にはその余裕がない。だから外需に力を注ぐべきだ。外需中心のグローバルエコノミーは日本にとって住みやすい環境になっていくだろう。

福岡ニューディール計画は、農業へ人材移転する計画を始めとして17のプロジェクトから成る。高齢者の運転は危険だから免許を返すという議論は地方では困る。そこで事故が起こりにくい車の開発や、水素自動車、ハイウェイ、水素タウンなどの実現を目指している。また「がんペプチドワクチン治療」（免疫力を促進させてがん治療を行う）という、外科手術、抗がん剤、放射線に次ぐ第4の治療法の開発を進めている。他にも半導体事業、ロボット事業、アジアの若者ファッションやコンテンツを使ってアジアに進出すること、農商工連携、都市鉱山の開発などがある。伸びる世界市場にどれだけ参入できるかが課題。また雇用の70%は占める中小企業がどれだけ成長できるかも鍵となる。過去の世界市場進出の失敗例を踏まえて、いかに失敗しないかが課題だ。そのためにはITを駆使したり物流を保証したりしなければならない。県として、中小企業の産業や農産物を世界に発信していきたい。

地方分権については、少子高齢化が進む日本の社会構造の変化に伴い、地域に合ったサービスを提供しなければならない。出生率の一番低い東京に人口が集中していることはサステナブルではない。少子高齢化社会の中で高齢者1人をどうやって面倒をみるかは大変なことであり、国の基準では間に合わない。お金ばかりかかり満足度の高いサー

ビスが得られない。思い切って地方に産業振興を任せてはどうだろうか。国家たるものは世界を見て、世界と渡り合うべきである。例えばグローバル化におけるルール作りだ。環境問題でも世界ルールを作る必要がある。どうやったら自国の成果が世界標準になるかを考えないと余計なコストがかかる。国家はもっと国家らしいことをし、自治体に任せるところは任せてもらいたい。地方分権を一生懸命行うので皆様にご理解ご協力をお願いしたい。

\*\*\*\*\*